

和田～生藤山～石楯尾神社

期 日：3月11日（日）曇り

コース：和田→登山口（タクシー2060円）8：37→山の神9：52→連行峰10：57→
茅丸11：26→生藤山11：53→石楯尾神社14：09～14：10→上野原14：
27～31→八王子

参加者：M・T M・S S・S M・K C・O



タクシーを生藤山・醍醐丸方面への登山
道入りの口で下車。まだ足取りも軽い。

堰堤工事用行き止まりの道が終わると
登山道に入る。思っていたより雪がたくさ
ん残っている。昨日の雨がここでは曇だっ
たとタクシーに運転手さんが言っていた。
この辺りはまだ春の斑雪。





もうすぐ稜線にでる。あれが山の神。よーし、もうひと頑張り。稜線を見上げ気合を入れる先頭のSさん。



たどり着いた山の神の道標はここ一両日の寒さに凍りついていてた。たどり着いた登山者も道標全体の張り付いた雪をかきむしる事は辛い作業のようだ。思いがけない幻想の中に暫し身を委ねる。



山の神の木立。杉の枝は雪の重みに思いっきり下に垂れ下がり、葉を落とした広葉樹は雨氷の花を咲かせている。その姿がとても美しい。



Sさんの地形図を見ながらその印の意
味を確認するOさん。稜線上の勉強会。



山の神から先の稜線歩きが予想もしていなかった幻想と静寂の中へと私達をいざなった。静けさを破るのは自分たちのキャーとオーの叫び声。うっかりザックが木に触ると上から首筋めがけて柔らかい雪玉がボタッ！その冷たさが嬉しい？



時々現れるようになった青空。薄日がさし微風が吹くと風に誘われて樹木に寄り添っていた春の雪がキラキラと白い空間に飛び立つ。空中はまさに光と雪の競演の舞台となる。





ますます雪が深くなる。ときどき光と雪の空中舞台を楽しみながら生藤山へと向かう。



やっと着いた生藤山山頂。昼食の前にテーブルに積もった雪払い。



熱々のラーメンもすぐに冷える。おかわりの際は温めなおすが、頭上から落ちてくる雪もコップルにこんにちはと飛び込んでくる。



お腹の中から体を温めて、下山開始。クリスマスケーキのモミの木のような樹林の中を進む



思いがけない山行となった。この日の弱い陽の光はあきらかに春の暖かさを運んできていた。